

# 特集 やさしさがつながるまちへ

## 高齢者と家族と私たち

認知症サポーター養成講座を受講するともらえるオレンジリング。  
多くの方々がオレンジリングを身につける日が望まれる。

**今**までの高齢者への福祉施策は、当事者や民生委員からの生活支援の相談があった場合、行政が相談内容に応じた支援や援助を行なってきました。

しかし、これからは、すでに始まっている超高齢社会のなか、これまで以上の支援体制を整備する必要性が叫ばれています。

むつ市では、高齢者の異変を早期に発見するための重層的な見守り体制を構築するため、平成27年3月に「**みんなで身を守る協定**」を締結。日常生活に関わるライフライン等の44の事業者が、日常業務の中で「さりげなく様子を見る」、「異常に気づいた場合に連絡する」という、地域レベルの目線で身守っています。

私たちは、地域のみなさま自らが互助の精神で地域を身守ることで、連帯意識を高め、高齢者にとって、心配のない、安心で安全な地域生活環境の構築をめざしています。

## おかえりネットが 安心のまちをこくへ

本人も、家族も、  
安心して暮らすために

市では、徘徊等の認知症状がある高齢者を介護しているご家族の精神的負担や身体的負担の軽減を図るとともに、徘徊高齢者等の安全及び生命を守り、住み慣れた地域で安心して生活が送れるように、見守りおよび行方不明となった徘徊高齢者等の早期発見・保護を行う「認知症SOSネットワーク事業（通称おかえりネット）」を始めます。

おかえりネット

認知症状が見られる高齢者で、徘徊により行方不明になるおそれがある高齢者の情報を、事前にご家族の方から市に登録していただき、行方不明になったときの手がかりになる反射材シールやお財布等に入れていただけの大きさの携帯カードを配付、見守りグッズを携帯した高齢者が行方不明となった場合、

事前登録の内容をもとに警察署、地域包括支援センター、高齢者等見守りネットワーク協力事業所に情報を提供し、早期発見・早期保護をします。

さまざまなか

強力に高齢者の安全を守る

おかえりネットを始めるにあたり、「みんなで見守る協定」にご協力いただいている44の事業者に加え、新たに15の事業者と協定を締結、おかえりネットの開始と見守り事業者の増加により、高齢者のみなさまに對し、やさしさがつながるまちへさらに進化することを期待しています。

今後、高齢者を身守るこのネットワークが強く太くつながるよう、事業者のみなさまと連携を強化しながら、高齢者が住み慣れたこのむつ市で安心して生活を送れるように努めてまいります。

### 認知症を知る

脳は、人間の活動をコントロールしている司令塔です。認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が衰えてしまい、司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障がいが起こり、生活するうえで支障が、およそ6か月以上継続している状態を指します。

### 避けられない課題 認知症

認知症は誰にも起こりうる脳の病気で、8年後の2025年には、高齢者の5人に1人が認知症の症状をもつと予想され、超高齢社会をつき進む日本にとって最重要課題のひとつとなっています。

### 認知症の症状

大きく2つ「中核症状」と「行動・心理症状」があります。

#### ■中核症状

脳細胞が壊れることによって直接起こる症状。記憶や判断力、時間や場所の認識など、認知機能が損なわれます。

- ・ 思い出せない
- ・ 時間、場所が判らなくなる
- ・ 判断力、理解力の低下等

#### ■行動・心理症状

本人の性格、環境、人間関係などが関係して精神症状や日常生活での行動に問題が起きます。

- ・ 妄想、幻覚、徘徊
- ・ 攻撃的な言動
- ・ 排せつの混乱
- ・ 過食など食行動の混乱

## 最初に気づくのは「本人」

**認知症**の方は、日々の生活失敗、家事や仕事がうまくいかなくなるといったことが多くなり、何となくおかしいと感じ始めます。認知症特有の「言われても思い出せないもの忘れ」が重なる、自分のなかで何かが起こっていると不安を感じ始めます。「認知症の本人に自覚がない。」は大きな間違い。最初に異変に気づくのは、本人なのです。

### 一番苦しいのは、本人です

認知症になったとき、多くの方は「忘れてなんかない」「病院に行く必要はない」と言い張ると言います。これは「私が認知症だなんて」という、やり場のない怒りや悲しみや不安から、自分の心を守るための自衛反応と言われています。

周囲の人が認知症という病気になるた人の本当の心を理解する事は容易ではありませんが、認知症の方の隠された悲しみの表現であることを知ることは大切です。

### 加齢によるもの忘れと認知症の記憶障害との違い

加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れには違いがあります。

加齢によるもの忘れ	認知症の記憶障害
経験したことが部分的に思い出せない	経験したこと全体を忘れている
目の前の人の名前が思い出せない	目の前の人が誰なのかわからない
物の置き場所を思い出せないことがある	置き忘れ・紛失が頻繁になる
何を食べたか思い出せない	食べたこと自体を忘れている
約束をすっかり忘れてしまった	約束したこと自体を忘れている
物覚えが悪くなったように感じる	数分前の記憶が残らない
曜日や日付を間違えることがある	月や季節を間違えることがある

